

クリニカル・クエスチョンを用いた 臨床支援ツールの比較

－6年前と現在－

大瀬戸貴己

奈良県立医科大学附属図書館

1. はじめに

当館では臨床支援ツールについてこれまでにいくつかの視点から比較調査し、発表をしてきた。その中の一つで機関誌『医学図書館』に掲載された調査報告¹⁾が今年ある論文に引用された。これをきっかけに、この報告についてもう一度現時点で見直してみて、6年前と現在でどのように変わっているのかを調査することにした。

2. 調査方法

2013年の調査報告¹⁾で設定した3つのCQ（以下の表を参照）について再び臨床支援ツールで検索し、内容を比較する。調査対象とする臨床支援ツールは2013年の報告で調査し現在当館で利用できる3種、UpToDate, DynaMed Plus, 今日の臨床サポートとする。調査結果については、当日の発表で報告する。

No.	CQ	キーワード
1	ゲノタイプ1型C型肝炎治療において、テラプレビル、ペグインターフェロンおよびリバビリンの三剤併用療法施行時に貧血症状が出た場合、テラプレビルの用量を減らしてもよいか？	Telaprevir, Anemia
2	PSA 検診は前立腺がんによる死亡率を下げるか？	PSA, Screening, Mortality
3	2型糖尿病において肥満外科手術は有効な手段か？	Diabetes2, Surgery

参考文献

1) 鈴木孝明ほか. クリニカル・クエスチョンを用いた臨床支援ツールの比較. 医学図書館. 2013;60(4):459-467 (奈良県立医科大学機関リポジトリ GINMU で公開)